

取材・熊崎有子
写真提供/
コレクティブハウジング社

西東京市にあるNPO法人「セプロス」が母体の地域通貨発行団体「Conte(コント)クラブ」は、住民間ニーズをマッチングしながら市民同士の交流を促している。

クラブでは、Conteという通帳を発行。会員(年会費1000円)から「できること(Give)」と「してほしいこと(Take)」を集計し、リストを作る。そのリストをもとに、助けが必要な会員は随時サービスを交換し合えるわけだ。

メニューは「車での送迎」「留守中のペットや花の世話」「PC教室」「庭の手入れ」「お年寄りの話し相手」など。サービスを受けたら、受け手は通帳からコントをマイナス、提供者はプラスされる。ただし、「Conteは通帳。でも、集めた点数は繰り越しできない」とか。1年間使用した後は新規のものと交換。各仕事の値段も一律だ。「コミュニティーを活性化することが目的なので、仕事はなんでも1時間＝10コントが目安。高い、安いはない」(事務局・羽山生也さん)と言う。しかしだからこそ、「マ

イナス通帳のまま使い続けてはいけないのが原則。善意は循環させなければならぬ。

Conteを利用する河東あやさんは、「年寄りは何かしてもらえばかりだと、かえって身近な人に頼み事をしづらいもの。でも、Conteなら義理やしがらみがなく、使いやすい」と話す。月に1回、会員の出会いの場である文化サロンも開かれている。

一方、地域の共同体を、新しい住まい方を通じて支援する団体もある。NPO法人「コレクティブハウジング社」だ。コレクティブハウジングという暮らし方は、北欧発。1棟の集合住宅に集う各世帯・人が、それぞれ独立の専有スペースを持ちながら、台所や洗濯室など、生活の一部を共同化する。合理的な住まい方である。

現在、東京都荒川区、世田谷区、千葉市川市など、4プロジェクトが進行中。荒川区の「コレクティブハウスかんかん森(仮称)」では、2003年6月の入居をめざし、世代や家族構成が異なるメンバーが、月2回

地域通貨の流通方法はさまざま。Conteクラブでは、写真のような通帳を使っている。現会員数は41名。地元の商店街にも広げていきたいと話す。



の定例会や食事会、報告会などを通じて、自分たちの大きな家づくりを進めている。

「広くて使いやすい共有スペースを設けたり、お客用の布団やアイロン、ミシンなどの備品を共有化することは、とても経済的で生活レベルも豊かになる。ただし、コレクティブハウスは、住民自身が管理し、共同体のルールなどを運営していくので、共に住まう」とはどんなことか、ワークショップや説明会を通して事前に学ぶことが大切」と本田貴士事務局長。住民の視点に立った、21世紀型のコミュニティーづくりがNPOによって着実に進められている。

コレクティブハウジング社では、「共に住まう」ためのワークショップを行う。写真は、「大所帯の食卓」をまかなう食事当番を体験するための会。



地域のコミュニティーに "元気"を取り戻す さまざまな取り組み

薄れつつある地域の世代間・世帯間のコミュニティー。それを取り戻すためにNPOがユニークな活動を展開している。

コミュニティー支援

Conteクラブ事務局
代表 羽山生也
東京都西東京市東町1-6-16 けやき荘101 セプロス内
TEL&FAX:0424-25-6090

コレクティブハウジング社
理事長 小谷部有子
東京都豊島区南池袋1-3-3
http://www.chc.or.jp/
TEL:03-5911-6971 FAX:03-5911-3919